

2021年3月6日配布

第262回山口西田読書会2021年1月30日のプロトコル

第262回は1月30日に開催、第263回は「饗宴」に代わる修論・卒論発表会であった。饗宴のテーマは例年通り「人間を考える」。修士課程修了予定の井町氏は福沢諭吉の『文明論の概略』、卒業予定の横田氏は西田幾多郎の『善の研究』をテキストとして「人間を考える」というテーマに迫った。討論も論文を読む・考える時間を大切に、事柄（人間）に迫った充実したものとなった。論文はホームページにアーカイブとして掲載予定。

1. テキスト

『働くものから見るものへ』旧全集版192頁11行目～193頁9行目（「働くもの」「二」第4段落）。

1. テキスト要約（前回のキーワード、キーセンテンス）

- ① 「矛盾律によって一つの対象界が構成せられる」場合…「相異」、「反対」、「矛盾」は根柢的に同じ性質。「対象界を限定する一般的なるもの」、「一般的なるものは、すべてを否定すると共に、すべてを肯定する」
- ② 「所謂経験的一般概念」の場合…「一般と特殊との間に間隙」、「超越的にして不変なる基体」
- ③ 「矛盾的限定によって構成せられたる対象界」の場合…「一般的なるものは即特殊化の原理」（「基体の如きものを容れる余地はない」）、「一般的なるものは特殊なるものを成立せしめる場所とか、相互関係の媒介者」「特殊なるものが却って基体」「全体と部分の関係」にして「個物的なるものを見る」、「モナド」と「予定調和」

2. 哲学的問い

ヘーゲルは絶対者を「同一性と非同一性（区別）との同一性」と規定したが、これはむしろ規定できないものとして規定したにすぎない。その真実の叙述は絶えず更新される「学の体系」であった。これに対し、ヘーゲルの体系的性格を「同一性」に見て、区別（差異）を重んじる思想がある。同一性と区別（相異・反対・矛盾）はどのように関係するのであろうか。